

Column

チャレンジ42.195km!

初体験(下)

Naoko H.

さて、私はラッシュのような人波の中でスタートについた。10時ジャスト、号砲と共に花火が鳴る。これからどんなことになるやら。ワクワク/ドキドキ=3/5、残りは不安感。ワクワクドキドキ不安感のマーブルケーキ状態の中でゆっくりと走り始めた。以下、ゴールまでの私の心中。走ったことある方は、初マラソンの状況を思い出してみ下さいね。

5km~10km-アツという間、順調に通過。それにしても中高年のランナーの多いこと!

15km-そろそろお尻ともも肉が文句をいい始める。一緒に走っている悪友Cちゃんも同様らしい。よかった。

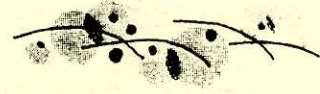
20~30km-惰性で足が動いているって感じ。周りのおじちゃん、おばちゃんはテンポ良く走っている。30km付近が苦しみのピークだ、と教わってきたけど、ピークもなく、お尻の痛みがずーっと続くだけ。30km以上は練習でも走ったことのない、本当の初体験。ちょっぴり優越感にひたる…。が、それも一瞬で、また痛みとの戦い。

40km-この辺りからゴールまでは登り坂。8割位の方は歩いてた。歩くよりは、カメになったって走った方

が速い。止まったらきっと走り出せなくなる。昨年、完走したCちゃんの痛々しい姿が脳裏に浮かぶ。絶対歩くんか!!とにかく足を前に出さなきゃゴールに入れなのだ、ゴールゲートは近づいてくれないもの。

とうとう、42.195km-ゴールッ!!……4時間6分ぶりに足は開放された。止まった時から膝は抜けてガクガク。ゴールしたら一体何があるんだろうと思いつつ走っていたが、結局お尻が痛いという事実だけだった。むしろ、大会が終わってからいろいろと思い起こした。

スタートすれば必ずゴールがあり、どんなにどんなに遅くともゴールに近づいているということが、痛いほどよくわかった。学生の頃は、時間は自分のために無限にあるのかと思っていた。しかし、人間にとっての時間は有限で、この世に生をうけた瞬間から死というゴールに向かって生きている。ゴールまでの距離は見当がつかないが、今の瞬間を死(ゴール)に近づくために生きている。そう考えたら、走ったことは、スタートとゴールの再確認であり、自分のためには無駄ではないような気がしてきた。当面フルマラソンを走ろうという気にはなれないが、自分のやりたいことにチャレンジする勇氣は、以前より倍増しているような気がする。皆さんも一生に1回は経験してみたら? (WSFジャパン会員)



「アジア地域の女子陸上競技に関するアンケート」集計結果より

アジア陸上競技協会女子委員会が、アジア各国の女子陸上に関する活動の現状や問題点についてアンケートを実施し、その結果を報告書にまとめています。日本をはじめ、中国、インドネシア、マレーシア、イランなど12カ国から回答を得ています。

質問内容は、○女性のコーチの有無、その人数 ○国際大会への参加状況 ○陸上競技組織内での女性役員のポジション、その数 ○女子選手に対する医療支援体制 など多岐にわたっています。

国によっては、宗教上の理由で女子選手がさまざまな制限を受けたり、経済的な理由で十分なトレーニングができなかったりという問題を抱えているようです。このアンケート結果は陸上以外の競技関係者にも、大変、参考になると思います。

アンケートの詳細についてお知りになりたい方はWSFジャパン事務局までお問い合わせ下さい。

[WSFジャパン事務局 TEL:03-3467-4360 FAX:03-3467-5455]